

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第37週 (9/7-9/13) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		37週	36週	35週	34週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 8/31-9/6 36週
		注意報	9/7-9/13	8/31-9/6	8/24-8/30	8/17-8/23	
			37週	36週	35週	34週	
小児科	RSウイルス感染症	○	7 0.39	3 0.17	5 0.28	1 0.06	49 0.36
	咽頭結膜熱		7 0.39	8 0.44	4 0.22	8 0.44	45 0.33
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18 1.00	25 1.39	17 0.94	14 0.78	202 1.50
	感染性胃腸炎		60 3.33	43 2.39	58 3.22	62 3.44	312 2.31
	水痘		1 0.06	5 0.28	3 0.17	6 0.33	41 0.30
	手足口病	↓★★★	118 6.56	149 8.28	152 8.44	142 7.89	798 5.91
	伝染性紅斑	○	21 1.17	15 0.83	13 0.72	18 1.00	105 0.78
	突発性発しん		19 1.06	17 0.94	19 1.06	15 0.83	83 0.61
	百日咳		0 0.00	0 0.00	3 0.17	3 0.17	5 0.04
	ヘルパンギーナ		12 0.67	20 1.11	36 2.00	37 2.06	160 1.19
	流行性耳下腺炎	○	11 0.61	9 0.50	7 0.39	8 0.44	80 0.59
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	13 0.06
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		3 0.60	5 1.00	8 1.60	2 0.40	40 1.18
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★★:流行中   ★★:やや流行中   ○:増加   ○:やや増加   →:変化なし   ↓:やや減少   ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	70歳代	画像診断等	A型肝炎	男性	80歳代	血清IgM抗体の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出等
				侵襲性肺炎球菌感染症	女性	30歳代	病原体の検出

・結核1件(163)、A型肝炎1件(6)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(8)、侵襲性肺炎球菌感染症2件(22)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

### 定点当たり報告数 第37週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.39となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<手足口病> 前週より更に減少し6.56となったが、流行発生警報開始基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

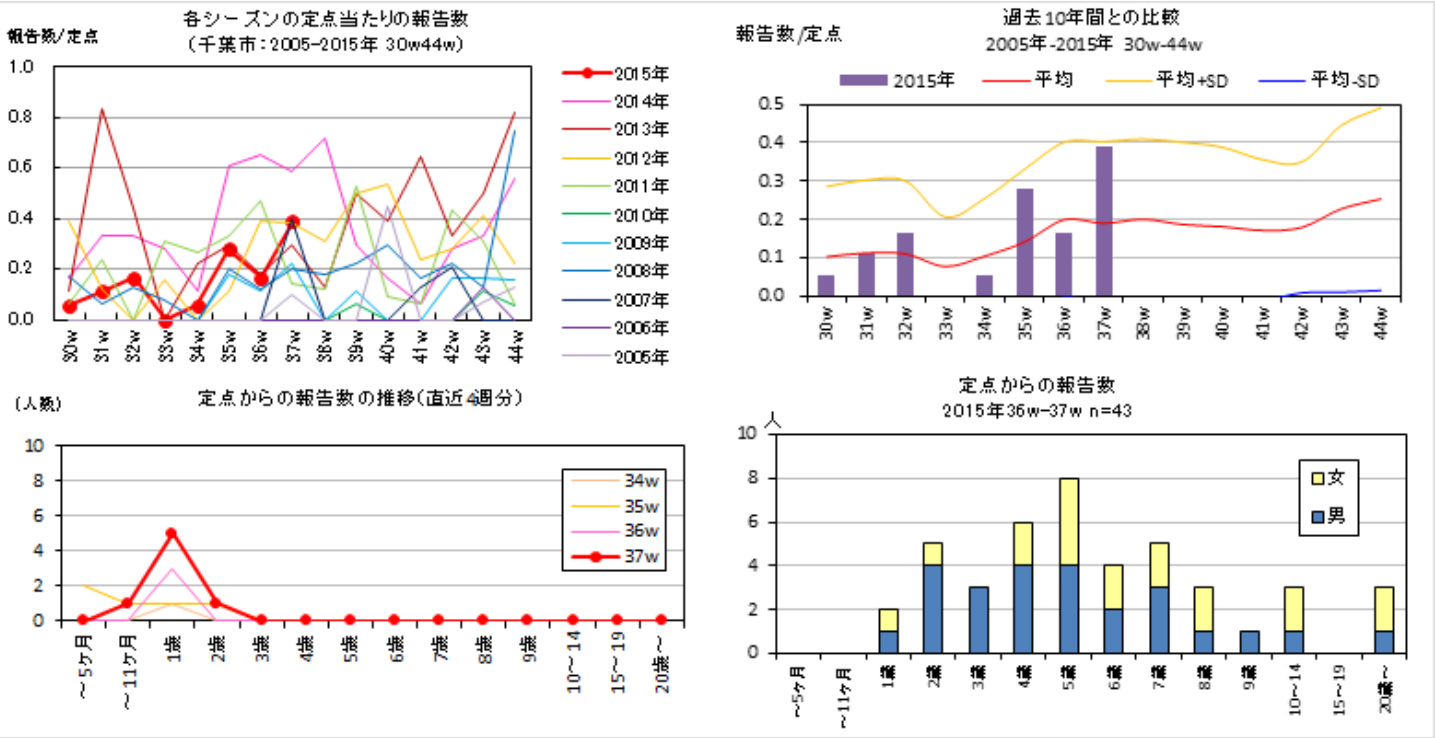
<伝染性紅斑> 前週より増加し1.17となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<流行性耳下腺炎> 前週より増加し0.61となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

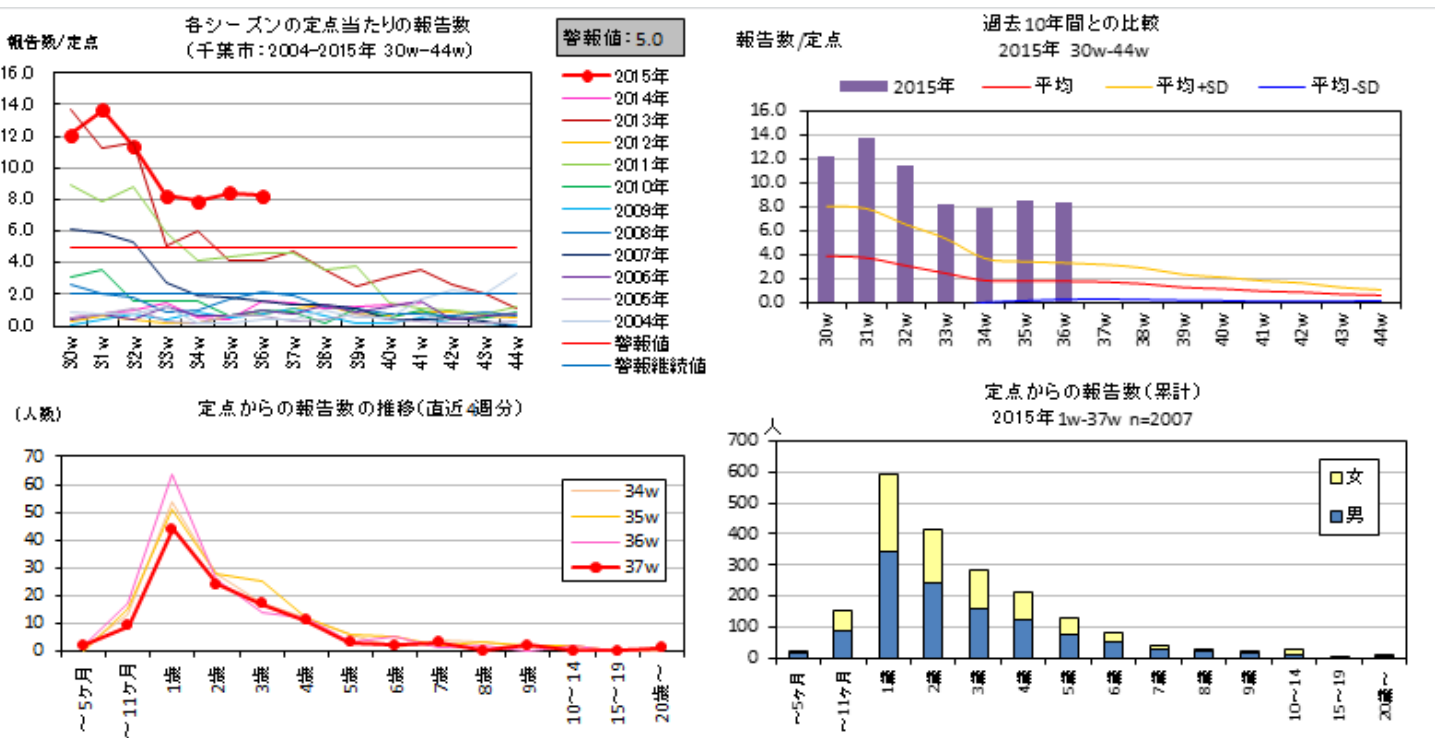
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの第36週現在は過去8年の同時期と比べて多くなっています。都道府県別では、大分県、宮崎県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第37週は前週から増加し0.39となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(1.5/定点)で最多で同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第37週の累積報告数(n=43)によると、性別では男性が58.1%(25名)、女性が41.9%(18名)で、年齢階級別では5歳(18.6%:8名)、4歳(14.0%:6名)、2歳及び7歳(共に11.6%:5名)が最の順に多くなっています。



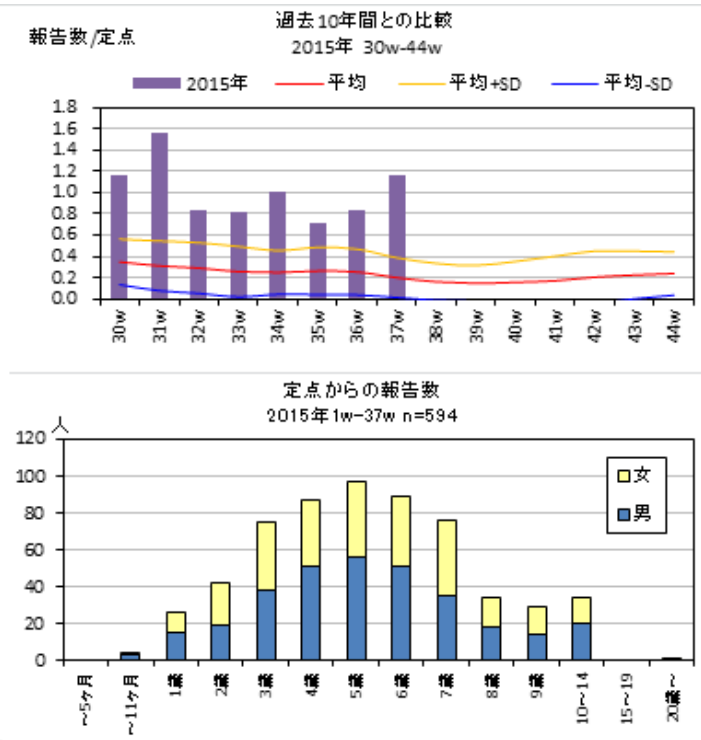
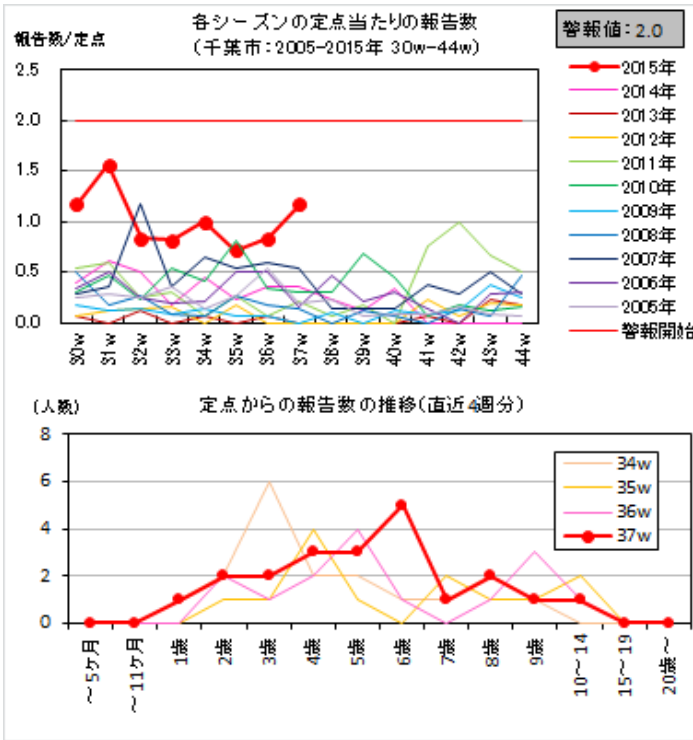
＜手足口病＞

全国レベルの第36週現在は、前週より減少しましたが過去8年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままとなっています。都道府県別では、長野県、新潟県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第37週は前週から減少し6.56となりました。過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値を上回ったままです。区別の発生状況は、稲毛区、美浜区、若葉区及び中央区で流行発生警報開始基準値を上回っており、稲毛区(14.7/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。また、緑区は流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回っています。2015年第1週から第37週までの累積報告数(n=2007)によると、性別では男性が57.8%(1161名)、女性が42.2%(846名)で、年齢階級別では1歳(29.5%:593名)、2歳(20.8%:417名)、3歳(14.1%:282名)の順に多くなっています。



## <伝染性紅斑>

全国レベルの第36週現在は、前週より大幅に減少しましたが過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2015年第37週は前週より増加し1.17となりました。過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、稲毛区(5.0/定点)で再び大幅に増加し流行発生警報開始基準値(2.0/定点)を上回り最多となっており、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第37週までの累積報告数(n=594)によると、性別では男性が53.9%(320名)、女性が46.1%(274名)で、年齢階級別では5歳(16.3%:97名)、6歳(15.0%:89名)、4歳(14.6%:87名)の順に多くなっています。



## <流行性耳下腺炎>

全国レベルの第36週現在は、過去8年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では、佐賀県、沖縄県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の2015年第37週は前週より増加し0.61となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.5/定点)で流行発生注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第37週までの累積報告数(n=221)によると、性別では男性が55.2%(122名)、女性が44.8%(99名)で、年齢階級別では5歳(16.7%:37名)、4歳(14.0%:31名)、6歳(12.2%:27名)の順に多くなっています。

